

2019年3月期 第2四半期決算補足資料

(2018年4月1日～2018年9月30日)

1. 2019.3期 第2四半期実績

(百万円)

	'19.3期2Q 実績	'18.3期2Q 実績	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	14,256	15,495	-1,239	-8.0%
営業利益	963	2,218	-1,255	-56.6%
経常利益	2,475	4,794	-2,319	-48.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,912	3,550	-1,638	-46.1%
研究開発費	3,287	3,205	+82	+2.6%
研究開発費率	23.1%	20.7%	+2.4pt	-
営業利益率	6.8%	14.3%	-7.5pt	-
1株当たり四半期純利益(円)	33.85	62.73	-28.88	-
設備投資額	528	645	-116	-18.1%
減価償却費	1,446	1,468	-21	-1.5%
期中平均レート(US\$/円)	110.27	111.07	-0.80	-

2. セグメント別売上高

(百万円)

	'19.3期2Q 実績	'18.3期2Q 実績	前年同期比	
			増減	増減率
【医薬品事業】	10,939	12,559	-1,620	-12.9%
国内医薬品	6,974	8,453	-1,478	-17.5%
海外医薬品	3,429	3,586	-157	-4.4%
医薬品原体	535	519	+16	+3.1%
【LAL事業】	3,317	2,936	+380	+13.0%
合計	14,256	15,495	-1,239	-8.0%
(海外売上高)	6,224	6,020	+203	+3.4%

<主要製品の販売状況>

LAL事業が国内・海外ともに伸長した一方、医薬品事業が国内薬価改定の影響を受け大幅に減少したことから、減収。なお、売上高全体への為替影響は約-100百万円。

- ・国内アルツは、市場全体が数量ベースで縮小するなか、販売提携先の拡販施策により医療機関納入本数が微減に留まる。(前年同期比 市場-2.5%、アルツ医療機関納入本数-1.1%)。当社売上は、薬価引き下げの影響が加わり、大幅に減少。
- ・オペガン類は、シエルガンが伸長し、医療機関納入本数が増加。(前年同期比 市場+3.9%、オペガン類医療機関納入本数+9.4%)。当社売上は、薬価引き下げの影響をカバーして前年同期並み。
- ・ヘルニコアは、本年8月より発売。発売初年度であることから、当社売上は少額。
- ・米国向けジェル・ワンは、競合激化に伴い、現地販売数量の伸び率は以前に比べ低下(前年同期比 +3%)。当社売上は、増加。
- ・米国向けスパルツFXは、現地販売数量が一部保険会社による償還厳格化の影響を強く受け減少(前年同期比 -11%)。当社売上は、前年同期の出荷が多かった反動も加わり大幅に減少。
- ・中国向けアルツは、販売提携先の営業施策が奏功し、増加基調が継続。
- ・LAL事業は、エンドキシン測定用試薬等の国内・海外販売がともに好調に推移。特に海外において代理店経由から直接販売へ移行するなど営業力強化に注力、エンドキシン測定用試薬に加えグルカン測定体外診断薬が伸長。